

鍵盤ハーモニカ

リコーダー

インドネシアへ送ろう

富山のNGO 収集協力呼び掛け

小学校の授業に活用

富山市のNGO・インドネシア教育振興会(窪木靖信代表)は同国での音楽教育に活用するため、不用となった鍵盤ハーモニカとリコーダーの提供を呼び掛けている。同会が運営に関わる小学校の授業で使う予定で、「芸術的な活動を通し、子どもたちの表現力を育みたい」としている。

インドネシア教育振興会は、子どもたちに文房具を贈ったリ、平和道徳教材を制作して配布するなど、現地の教育環境の整備に取り組んでいる。

今回楽器を贈るのは、昨年2月に南タンゲラン市に設立した「ヒカリ小学校」。同会がつくった教育法人ヤヤサン・スマラクが運営し、現在1

年生32人が通学している。

同会理事を務める富山大人間発達科学部の野平慎二教授によると、インドネシアの公立小学校では地域差はあるものの、音楽を教えることができる教員や楽器の不足などの理由から音楽教育はあまり盛んでないという。ヒカリ小学校でも音楽の授業はほとんど行われていなかった。

5月中旬までに集まった楽器は、窪木代表が26日の開校1周年の記念式に合わせて届ける。同会では本年度中に鍵盤ハーモニカとリコーダー計100点を目標に収集したい考え。野平教授は「家に眠っている楽器があれば提供してほしい」、窪木代表は「インドネシアの子どもたちに音楽の面白さに触れてもらいたい。自分子どもや親戚が使うような気持ちで収集に協力してほしい」と話す。

鍵盤ハーモニカとリコーダーは〒930-1313、富山市中滝142の9の同会事務局に郵送するか直接届ける。問い合わせは窪木代表、090(3764)010883。



ヒカリ小学校で授業を受ける子どもたち。音楽教育はほとんど行われていない—インドネシア・南タンゲラン市